



参加者名

氏名	所属	加藤護	京都大学総合人間・環境学研究所
足達晋平	気象庁地震火山部	加藤尚之	地震研究所
Arashu	九州大学	金沢 敏彦	地震研究所
R. グラー	東京大学	金谷淳二	東京電力
安藤亮輔	地震研究所	金森博雄	CALTEC
飯尾能久	京都大学防災研究所	神谷眞一郎	JAMSTEC
石井透	清水建設	亀伸樹	九州大学理学部
五十嵐俊博	東北大地震研	河合研志	東京大学
池浦友則	鹿島建設	川勝 均	地震研究所
石田瑞穂	防災科学技術研究所	川上慶高	地震研究所
石原靖	JAMSTEC	川瀬博	九州大学
市原寛	愛媛大学	菊池政智	日本原子力発電
市原美恵	地震研究所	菊池眞一	海上保安庁海洋情報部
井上智広	NHK	北佐枝子	東北大学
井出哲	東京大学大学院理学研究科	北折智規	(株) 中部電力
伊藤貴盛	応用地震計測	木村榮一	構造調査コンサルティング協会
伊藤純一		行谷佑一	地震研究所
伊東博	温泉地学研究所	工藤一嘉	地震研究所
岩瀬聡	日本原子力発電	功刀卓	防災科学技術研究所
岩田知孝	京都大学防災研究所	呉長江	地震研究所
上田和枝	元地震研究所	黒木英州	気象研究所
植竹富一	東京電力技術開発研究所	桑野修	地震研究所
上村彩	防災科学技術研究所	桑野亜佐子	東北大学
内田浩二	九州大学	小菅正裕	弘前大学
内田直希	東北大学	小林和男	元海洋研
内出崇彦	東京大学大学院理学研究科	小林励司	地震研究所
内村直之	朝日新聞	小松美加	東京大学出版会
及川純	地震研究所	小山順二	北海道大学
大城功	文部科学省	斎藤正徳	
大野文夫	富士通	鷲谷威	名古屋大学大学院環境学研究所
岡元太郎	東京工業大学大学院	佐々木智之	東京大学
奥村晃史	広島大学	佐竹健治	産業技術総合研究所
小川裕	(株) 四国電力	佐竹昭弘	応用地震計測
風間卓仁	東京大学 4年	佐藤吉之	竹中工務店
勝俣啓	北海道大学大学院理学研究科	澤崎郁	東北大学

篠原雅尚	地震研究所	中原恒	東北大学大学院理学研究科
島崎 邦彦	地震研究所	中村武史	九州大学
下田直之	立命館大学	中村豊	(株) SQR
臼井裕章	茂原工業高校	中村雅基	気象研究所
杉憲子	共立女子大学	中村操	早稲田大学
鈴木保典	(財)地震予知振興会	中迎誠	大阪市立大学
鈴木岳人	地震研究所	西田究	地震研究所
瀬川茂子	朝日新聞社	練木道夫	明星電気
高久真生	地震研究所	野口和子	地震研究所
鷹野 澄	地震研究所	野口伸一	防災科研
高橋雅紀	産業技術総合研究所	東野陽子	海洋研究開発機構
高橋春夫	山梨県庁	朴舜千	京都大学
高森昭光	地震研究所	泊次郎	東大総合文化
高山博之	気象研究所	橋本千尋	東京大学理学系研究科
竹内希	地震研究所	蓮見知弘	早稲田大学
竹内淳一	立命館大学	畑山健	消防研究所
竹内宏之	立命館大学	馬場俊孝	JAMSTEC
竹内恵	日本科学未来館	浜田信生	気象庁気象研究所
武村雅之	鹿島建設小堀研究室	浜野洋三	東京大学
棚田俊收	温泉地学研究所	林能成	名古屋大学大学院環境学研究科
田原道崇	九州大学	林田拓己	広島大学
塚越芳樹	地震研究所	東原紘道	防災科学技術研究所
東田進也	気象庁地震火山部	引田智樹	鹿島建設
都司嘉宣	地震研究所	引間和人	東京大学
辻村直哉	共同通信	日野亮太	東北大学大学院理学研究科
土方勝一郎	東京電力	平田直	地震研究所
津村建四朗	(財)日本気象協会	平原和朗	名古屋大学大学院環境学研究科
鶴岡弘	地震研究所	平原謙司	(株)電源開発
寺川寿子	東京大学	深尾良夫	JAMSTEC
土井恵治	地震研究所	藤井直之	名古屋大学大学院環境学研究科
遠田晋次	産業技術総合研究所	藤田紳一	共同通信
戸塚英雄	松下電器	藤本光一郎	東京学芸大学
豊国源知	九州大学	福山英一	防災科学技術研究所
永井悟	地震研究所	古村孝志	地震研究所
永田広平	東京大学	古本宗充	金沢大学
中谷正生	地震研究所	堀貞喜	防災科学技術研究所

本多 了	地震研究所	木村	地震研究所
前田拓人	東北大学大学院理学研究科		
前田憲二	気象研		
牧正	元地震研究所		
正木千里	横浜市		
松浦充宏	東京大学大学院理学系研究科		
松浦律子	(財)地震予知振興会		
松崎伸一	四国電力		
松澤暢	東北大学大学院理学研究科		
松島信一	清水建設		
松田時彦	元東京大学地震研究所		
松沼省一			
三雲健	メキシコ国立自治大学		
翠川三郎	東京工業大学大学院		
三宅弘恵	地震研究所		
宮武隆	地震研究所		
宮村正	鹿島建設		
望月裕峰	地震研究所		
森下健	立命館大学		
八木勇治	建築研究所		
柳井正	NTTファシリティーズ		
山下輝夫	地震研究所		
山下主税	地震研究所		
山田卓司	京大防災研		
山本容維	九州大学		
山本峰次	共同通信		
吉田真吾	地震研究所		
吉田康宏	気象研		
若槻修	IBC岩手放送		
綿田辰吾	地震研究所		
渡邊トキエ	地震研究所		
渡辺俊文	NTT MI研究所		
村上理	地震研究所		
室谷智子	地震研究所		
大木聖子	地震研究所		
安田	地震研究所		

## 研究実績報告（成果）（別紙）

菊地正幸教授記念シンポジウム―次世代の地震学に期待すること―は平成16年11月1日、2日に東京大学弥生講堂において開催された。講演者は初日5人、2日目16人、参加者は初日142人、2日目129人であった。10日前に発生した新潟県中部地震の臨時観測やデータ処理等で忙しく、参加希望にもかかわらず参加できない人が少なからずいたそうであり、これについては残念であった。また2日は博士論文発表会と重なり、この時期にシンポジウムを開くことの難しさを実感した。

シンポジウムでは多くの講演者によって菊地教授の業績が紹介され、彼が亡くなった後もその研究が引き継がれ順調に発展しつつあることが報告された。講演範囲は理論研究、データ解析、工学的応用から社会貢献へと広がっており、あらためて菊地教授が展開した研究分野の広さを認識させた。初日は海外から参加の金森博雄氏、三雲健氏の震源過程研究の講演から始まり、岩田知孝氏は強震動予測、翠川三郎氏は横浜市の強震ネットワーク、藤井直之氏は地球物理一般に何が面白いかについて講演した。それぞれ内容の濃いレビューを含んだ講演であり、必ずしも広く知られていない菊地教授の業績なども紹介された。2日目は若手中心の研究者による講演という構成であり、いつも以上に今後の展望に重点をおいた講演が多かった。亀伸樹氏、井出哲（研究代表者）は震源ダイナミクス研究の今後についての講演、遠田晋次氏からは新しい構造モデルの提案があった。松澤暢氏、佐竹健治氏、鷺谷威氏、八木勇治氏の講演によってアスペリティモデルが今後も有効な作業仮説であることが確認された。日野亮太氏は今後の海底地震観測の展望を示し、勝俣啓氏は重力波地震学という全く新しい提案を行い、飯尾能久氏は内陸地震の応力蓄積モデルを紹介した。三宅弘恵氏、古村孝志氏により地震学にとって強震動解明が重要課題であることが強調され、功刀卓氏、東田進也氏、林能成氏によって観測網の整備からリアルタイム地震学としてどのように社会に情報発信するかが議論された。最後に武村雅之氏により地震学の社会的活用の問題が議論された。議論は活発で特に2日目は各20分という短い講演時間のため、時間に収まらない議論もあった。時間配分をもう少し長く取ればというのが実行委員会としての反省点であるが、その分参加者からは密度の高いシンポジウムという好意的感想が聞かれた。参加者は多かれ少なかれ今後の展望を共有することが出来たと思われ、その意味でシンポジウムの目的は達せられた。